

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100566
法人名	有限会社 ユートピア
事業所名	グループホーム 福寿荘
所在地	佐賀市西与賀町大字厘外1236-7 (電話) 0952-28-4085

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番地2		
訪問調査日	平成 19年12月6日	評価確定日	平成 20年1月20日

【情報提供票より】(平成 19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.1

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(12月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック・田中なおき歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通の便が良く、静かな住宅街にあるホームで、付近は通学路になっているため、小学生が立ち寄って交流することもある。家庭らしさを大切にしたいという経営者の思いが、ホームの造りに反映されていて、居心地の良い空間で、一人ひとりの個性が尊重された生活を営むことができています。安全面でも当初からスプリンクラーを設置し、各部屋にトイレがあるため、夜間などはとても都合が良いと入居者の方が喜ばれている。食事はだしからこだわり、手作りを大切にしたい取り組みをされている。毎月家族に届けられるホームだよりには、写真がたくさん使われ、日々の様子が一目でわかるように工夫されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、居室などの場所の表示に家庭的な雰囲気を求められていたが、わかり易く親しみのあるものを取り入れる等、改善課題に取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を、サービスの質の向上のためと理解されており、意見を集約してまとめられている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催する会議には、地域住民・家族・行政の参加があり、意見を聞いたり、情報交換の場になっているが、メンバーが固定しているため、活かしきれていないところもある。地域の理解と支援をさらに得ることができるよう、例えば避難訓練などの相談に消防や警察からの参加を依頼するなど、幅広い立場の人への働きかけを望みたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月ホーム便りに写真を掲載して、暮らしぶりや様子を伝え、心身の状態も、訪問時や書面で定期的に報告をされている。家族との面談時には、特に気をつけて意見を出してもらうようにし、全職員が共有して、運営への反映ができるように取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の運動会に入居者の方たちと見学・応援に行かれている。また、近所の小中学生が遊びにきたりすることもある。近隣住民の活動が少ない地域ではあるが、ホームからの働きかけや行事への参加を増やそうとされている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「先輩としての尊敬の気持を持って、相手の立場に立って同じ目線で援助します。やさしい笑顔で接します。」という理念のもと、その人らしさを大切にしたいと目標を持って、実践に努められているが、地域における役割等にふれた内容が盛り込まれていない。	○	地域密着型サービスとしての役割を目指した内容が理念にも求められるので、加えられることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目につきやすいところに理念を掲示し、入居者の方に人生の先輩として尊敬の念を持って接し、笑顔を決やさないような実践を心がけられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会に入居者の方たちと見学・応援に行かれている。また、近所の小中学生が遊びに来たりすることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を、サービスの質の向上のためと理解されており、前回の評価をふまえた改善にも取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催する会議には、地域住民・家族・行政の参加があり、意見を聞いたり、情報交換の場になっているが、メンバーが固定しているため、活かさきれていないところもある。	○	地域の理解と支援をさらに得ることができるよう、例えば避難訓練などの相談に消防や警察からの参加を依頼するなど、幅広い立場の人への働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設行事に参加してもらったり、必要な場合には地域包括支援センター以外の関係者とも連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りに写真を掲載して、暮らしぶりの様子を伝え、心身の状態も、訪問時や書面で定期的に報告をされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面談時には、特に気をつけて意見を出してもらいようにし、全職員が共有して、運営への反映ができるよう取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わることもあったが、協力し合い、入居者がダメージを受けないように配慮され、入居者の方も受け入れられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報は全員に知らせるようにし、都合がつけば勤務として参加できるようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人的に福祉・医療関係者と情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組まれているが、地域の同業者との交流する機会はまだ持たれていない。	○	相互訪問等の活動を通じて、実践的な学びや経験を聞いたりできるので、地域同業者のネットワークづくりが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず来訪してもらい、入居者と一緒に時間を過ごしてもらい、本人や家族の方の理解と納得のもとで入居をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の方から昔の話や知らないことを教えてもらい、互いに学んだり、理解しようと努められている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で、また言葉や表情から思いや意向を汲み取り、把握しようと努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には、口頭や書面で意向を尋ね、入居者や職員全員で意見を出し合って介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態変化や関係者の気づきに応じ、家族・入居者・職員の意見を取り入れて、現状に即した見直しがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院への同行、病院への通院等、柔軟な支援が実施されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に受診できるように支援されていて、協力医とも相談ができるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度の方に、書面で急変時の対応について約束を交わした経験はあるが、重度や終末期についてのホームとしての方針がまだ整えられていない。	○	ホームとして対応できることを関係者が共通理解し、連携体制づくりのための話し合いを行い、方針を文書化することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	専門用語を使わないことを話し合ったりして、言葉かけに気をつけたり、トイレの誘導等もさりげなく行われ、個人情報の取り扱いにも注意されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方の都合をできるだけ優先するように心がけ、希望に添えるように努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いて献立がつくられていて、職員も同じ食事を共に楽しまれている。また、入居者の方のできるやり方を尊重しながら、調理の下ごしらえ・片付けを一緒に行うようにされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日毎に交代で入るので、毎日入浴できるようになっている。入居者の方の希望に合わせて変更ができるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケをしたり、踊ったりと、長年楽しんでいたことを活動に取り入れ、洗濯物たたみは毎日の仕事として分担してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	普段は散歩に出かけ、行ってみたいところを聞いてドライブ等外出の機会をつくっている。近くの飲食店での外食も楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者・職員は、鍵をかけることの弊害を理解されており、安全に配慮しながら、日中は鍵をかけない対応をされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所を決め、訓練を年2回実施されているが、入居者で混乱された方がおられたので、スタッフだけの訓練になっている。	○	地域の人への協力を依頼して、可能な限り入居者の方の参加も含めた避難訓練の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を把握し、栄養バランスもチェックし、身体の状態や習慣に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングや共用空間は、季節感や生活感がある調度になされ、光や音にも配慮がされている。食事をつくる匂いが漂ったり、家庭的な雰囲気をこわさない居心地になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ・馴染みの家具や仏壇等が持ち込まれている。入居者の方や家族の意思を尊重しながら、職員は飾りの手伝いもされている。		